



日本音楽教育学会ニュースレター 第78号

目 次

1 学会からのお知らせ

- | | | |
|--|-------|---|
| 1. 日本音楽教育学会第50回大会（東京大会）報告 | 佐野 靖 | 2 |
| 2. 院生フォーラムを終えて | 川畑 有佳 | 3 |
| 3. 第9回 夏季WS in 弘前「つくってあそぼう：地域の芸術経験を目標して」 | 高橋 憲人 | 3 |
| 4. 韓国音楽教育学会との交流 | 今川 恭子 | 4 |

2 委員会からのお知らせ

- | | | |
|---|-------|---|
| 1. 編集委員会からのお知らせ | 水戸 博道 | 4 |
| 2. 国際交流に資する企画の支援について | 坪能由紀子 | 4 |
| 3. 中国四国地区理事選挙結果報告 | 水崎 誠 | 5 |
| 4. 日本音楽教育学会設立50周年記念出版 『音楽教育研究ハンドブック』について | 加藤富美子 | 5 |

3 音楽教育の窓

- | | | |
|---|-------|---|
| 1. 〈連載〉音楽・教育・学校 (21) 音楽室は「広場」 —異なる興味が行き交う教室のなかで世界が広がり深まる— | 猶原 和子 | 6 |
| 2. 韓国音楽教育学会 (KMES) 参加報告 | 藤井 康之 | 7 |
| 3. 2019 世界教育学会大会 (WERA) 参加報告 | 森尻 有貴 | 7 |
| 4. 日本コダイ協会全国大会 2019 in 東京参加報告 | 飯泉祐美子 | 7 |
| 5. カール・オルフの音楽教育夏期セミナーに参加して | 西沢 久実 | 8 |
| 6. 音楽学習学会第15回研究発表大会参加報告 | 古庵 晶子 | 8 |

4 会員の声

- | | | |
|--|-------|----|
| 1. 幼児音楽教育の新たな可能性を探って | 藤尾かの子 | 8 |
| 2. 日本音楽教育学会第9回夏季ワークショップ in 弘前・参加報告 | 加藤 希央 | 9 |
| 3. 第50回東京大会で初めての発表を終えて | 井越 尚美 | 10 |
| 4. 創の喜び！ Hands-on & Minds-on | 近藤 真子 | 10 |
| 5. 日本音楽教育学会第50回大会で初めて発表して | 宿久 舞希 | 10 |
| 6. 50回記念大会を終えて | 小島 千か | 11 |
| 7. 会員の新聞・近刊等紹介 | | 11 |

5 報告

- | | | |
|--------------------------|--|----|
| 1. 2019 年度総会 | | 12 |
| 2. 2019 年度第3回常任理事会 | | 18 |
| 3. 2019 年度第2回理事会 | | 19 |
| 4. 役員選出のための理事会 | | 22 |

- | | | |
|---------------|--|----|
| 6 事務局より | | 24 |
|---------------|--|----|

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1 日本音楽教育学会第50回大会（東京大会）報告 大会実行委員会委員長 佐野 靖

日本音楽教育学会第50回大会（東京大会）は、皆様のおかげをもちまして無事盛況のうちに終わることができました。あらためて皆様にお礼申し上げます。

東京藝術大学での大会開催は、第30回（1999年度）と第32回（2001年度）に経験がありましたが、当時と比べ参加人数、発表件数ともに段違いに増えており、対して本学の設備（教室や機材等）はほとんど旧態依然の状態。第50回の記念大会を引き受けるにあたり、かなりの不安材料があったことは確かです。案の定開催前日にはプロジェクターの故障が2会場で見つかり、山下薫子事務局長らスタッフは深夜まで取り替え作業にあたりました。口頭発表105件、ポスター発表71本、共同企画13本のエントリーがあり、多数の参加者を期待しつつ、あまりに多いと入り切れない会場が出てきてしまうのではないかと心配も正直ありました。

結果的に大会参加者数は、予想をはるかに上回る643名を記録し、大会全体としては成功裡に終わることができましたが、シンポジウムやプロジェクト研究、共同企画などで立ち見の方々、廊下で聞くことになってしまった方々が大勢出てしまいました。この場を借りまして、深くおわび申し上げます。

実行委員会企画のシンポジウムには、人類進化の海部陽介氏、心理学の岡田猛氏、音楽医科学の古屋晋一氏、プロジェクト研究には、Patricia Shehan Campbell氏、桐蔭学園小学部の岩井智宏氏と5年生の子どもたちと、素晴らしいゲストたちが大会を盛り上げてくださいました。ギャラリートークや特別展示で大学史史料室の橋本久美子氏にもお世話になりました。

最後になりましたが、今川恭子会長、有本真紀副会長、今田匡彦事務局長をはじめ理事の皆様、学会事務局の皆様、そして本大会実行委員会のメンバー、嶋田由美副実行委員長（学習院大学）、本多佐保美副実行委員長（千葉大学）、山下薫子事務局長（東京藝術大学）、市川恵事務局長補佐（早稲田大学）、船越理恵事務局長補佐（東京藝術大学）、伊原小百合実行委員（東京藝術大学）、大田美郁実行委員（小田原短期大学）、甲斐万里子実行委員（和洋女子大学）、小井塚ななえ実行委員（東洋英和女学院大学）、小島千か実行委員（山梨大学）、小原伸一実行委員（宇都宮大学）、長井覚子実行委員（白梅学園短期大学）、萩原史織実行委員（東京藝術大学）、福田裕美実行委員（東京音楽大学）、三橋さゆり実行委員（埼玉大学）、さらには本学院生スタッフ、お手伝いいただいた学部生たちに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



【写真】シンポジウム風景

2. 院生フォーラムを終えて

川畑 有佳（東京藝術大学大学院修士課程）

今大会の院生フォーラムは、「5つのフィールドから音楽教育を考える—学生による研究活動の発展を目指して—」というテーマの下、音楽教育を研究する院生が、興味関心のあるテーマに分かれてディスカッションを行いました。当日は、院生・学部生19名、そして学生以外のオブザーバー4名の、計23名が参加しました。参加者同士は殆どが初対面でしたが、同じ興味関心のあるフィールドにおいてディスカッションを行うことにより、研究への想いや課題意識に共通点があることを実感し、非常に盛り上がりのある活発な議論が重ねられました。

また、フォーラムの後半では、今後の院生・学生の取り組みや連携についても話し合いました。ここでは、「インターネットなどを活用した学生のコミュニティなどが創れるといい」、「各フィールドの現場と繋がれるシステムや、コミュニティに柔軟性がもてると理想的」など挙げられました。学生による研究の発展を目指した今回のフォーラムでは、院生・学部生同士が意識を高め合ったり、今後の研究の課題や可能性について考えたりする重要な機会になったのではないかと思います。



【写真】フィールドに分かれてディスカッション

3. 第9回 夏季WS in 弘前「つくってあそぼう：地域の芸術経験を目指して」

弘前ワークショップ企画立案リーダー 高橋 憲人

8月11・12日、弘前の目抜き通り「土手町通り」から程近い、焼煉瓦で装われた老舗の文化施設SPACE DENEGAで、本ワークショップが実施された。今田匡彦実行委員長のもと、複数の大学から集まった35歳以下の若手会員で実行委員が構成され、企画、運営がなされた。タイトルに「地域」と冠する通り、ローカルな、即ち参加者たち自身の体験から導かれる音楽活動を提案するため、実行委員の長谷川諒（神戸大学）と高橋がそれぞれワークショップを持ち寄った。北東北での開催であったが、東北地区外からも北海道2名、関東6名、北陸1名、東海3名、九州1名が参加、地元の現職教員、弘前大学の学部・院生らと合わせて総勢29名での開催となった。

長谷川は「サウンドペインティング」、高橋は「スタンピングを図形楽譜に見立てた音楽づくり」のワークショップをそれぞれ1日ずつ行ったが、この2つの実践に通底して重視されていたのが、身ぶり（音、描線を伴う）の質的な側面と、素材や他者との関わりにおける試行錯誤のプロセスであった。各実践のあとに設けられたディスカッションの場では、自身の教育現場への応用を積極的に検討する参加者たちから、多くの建設的な質疑や提案が投げかけられた。また、現場への応用の手がかりとして、これまでハンドサインを用いた即興演奏などの類似実践に取り組んできた地元青森の現職教員たちから、経験に裏付けられたコメントをもらえたこともありがたかった。

当日の写真はWSのHPをご覧ください。<https://onkyoikuhirosakiws.wixsite.com/home>

4. 韓国音楽教育学会との交流

会長 今川 恭子

8月8日(木)と9日(金)の2日間ソウルの中央大学で開催された韓国音楽教育学会(KMES)学術集会に、日本音楽教育学会長として招待されて基調講演を行ってきました。日韓関係がかならずしも良好とはいえない状況下で、両学会の交流を重視して招待して下さった Kim Yong Hee 会長、ならびに日本からの参加者全員を温かく迎えて下さった KMES 関係者の皆様に、この場を借りて心からのお礼を申し上げます。日本からの参加者は今川を含めて8名。それぞれの研究発表では熱心な意見交換がなされ、日本の音楽教育研究に対する関心の高さが感じられました。

振り返りますと2008年1月に日本女子大学で日韓合同ゼミナールが開催され、その後も年次大会での双方向的な会員参加と発表、学会誌の交換など、本学会は KMES と密接な交流を続けてきました。政治や社会状況がどのような時であっても学術交流を行うことの重要性を認識し合いながら、両学会のこうした協力関係が今後も発展的に継続することを願っています。

2 委員会からのお知らせ

1. 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 水戸 博道

第3回編集委員会(令和元年10月18日(金)開催)では、投稿原稿の採否について審議を行い、次の通り決定しました。『音楽教育学』に投稿され、再査読となっていた研究論文2本については、1本が不採択、1本が採択されました。また、再査読の論考1本が採択されました。『音楽教育学』への新規投稿の研究論文4本については、1本が再査読、3本が不採択となりました。

| |
|---|
| 『音楽教育実践ジャーナル』vol.18 通巻 31 号(2020年12月発行)の特集テーマ |
| 次号の特集テーマは、「即興を考える」となりました。 多くの原稿の応募をお待ちしております。また、テーマにかかわらず、自由投稿も歓迎いたします。 原稿の締め切りは、自由投稿・特集投稿ともに2020年2月15日(土)必着です。 |
| 『音楽教育学』次回投稿締切 |
| 『音楽教育学』の次の締め切りは2020年2月15日(土)となっております。できるだけ多くの方の投稿をお待ちしております。 |

2. 国際交流に資する企画の支援について

国際交流委員長 坪能 由紀子

本年度のプロジェクト研究は、学会創立50周年を記念して、アメリカから民族音楽学・音楽教育学のパトリシア・シーアン・キャンベル氏を基調講演者として招聘しての、海外に広がる会となった。そのためこの催しは国際交流委員会とプロジェクト研究との合同で行われた。

東京藝術大学の第6ホールに桐蔭学園小学部5年生の子どもたち36名が来場し、キャンベル氏及び高須裕美氏のアドバイスのもと、ベトナム、チェロキー、ネパール等の音楽を教材として、音楽教師の岩井智宏氏が授業を行った。子どもたちの積極的で楽しい授業への参加の様子、岩井氏の授業

の圧倒的な迫力に、会場は熱気にあふれた。満面の笑みでそれを見守っていたキャンベル氏は基調講演で、世界の多くの音楽を教室に取り入れるための、貴重な提言を行った。

国際交流委員会では、来年度も「国際企画の後援と共催等に関する内規」に基づいた国際的な催しを募集する。締切は2020年1月末日、詳細は学会HP内国際交流委員会内規を参照のこと。

3. 中国四国地区理事選挙結果報告

選挙管理委員長 水崎 誠

「第24期日本音楽教育学会理事選挙」の結果につきましては、ニュースレター第77号でご報告したところですが、後日、中国四国地区理事の当選者であった三村真弓会員が辞退されたため、「会長・理事選挙実施要領Ⅱ6(6)」に基づき、次点者を繰り上げて当選者を確定することになりました。中国四国地区の次点者は2名同点であったため、「会長・理事選挙実施要領Ⅱ6(3)」に基づき、選挙管理委員会において厳正な抽選を行いました。抽選は、2019年8月4日(日)日本音楽教育学会事務局にて、選挙管理委員会5人全員が立ち会って行い、その結果、権藤敦子会員を中国四国地区の理事の当選者として決定しましたので、報告いたします。

4. 日本音楽教育学会設立50周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』について

設立50周年記念出版編集委員長 加藤 富美子

総会でもご報告いたしましたように、日本音楽教育学会編『音楽教育研究ハンドブック』が出版されました。学会設立50周年記念出版であり、たくさんの学会員の皆様が執筆されています。音楽教育について学びたい方、研究・実践に携わっている方、そして音楽教育に関心をもつすべての方にお読みいただきたい、音楽教育研究最新・必携のハンドブックです。まずは、学会ホームページおよび同封のチラシでご確認ください。

今年度中は会員特別価格でお求めいただけることになりました。

目次

- 第1部 音楽教育研究の視座
 - 第1章 音楽教育研究の今
 - 第2章 「実践の学」「応用の学」としての音楽教育研究
- 第2部 音楽教育研究の方法
 - 第1章 音楽教育研究の計画の立て方
 - 第2章 音楽教育研究の組み立て方
- 第3部 音楽教育研究のフィールドと実際
 - 第1章 乳幼児と音楽
 - 第2章 障害のある人と音楽
 - 第3章 生涯にわたる学びと音楽
 - 第4章 小学校・中学校・高等学校における音楽教育
 - 第5章 高等教育・教員養成課程における音楽教育



音楽之友社刊 2019年10月5日発行 B5判・248頁 ISBN978-4-276-31140-4

3 音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校 (21)

1. 音楽室は「広場」—異なる興味が行き交う教室のなかで世界が広がり深まる—

猶原 和子 (江戸川大学)

小学校に勤務していたときに大切にしていたのは、「音楽は個人の営みであり、興味が異なることを前提に協働して学ぶ」ことであった。自ら課題を選択し、練習し、聴き合い批評し合うという活動を日常的に続ける中でみえてきたことがある。

そのひとつは、個の尊重が他者の尊重につながり、互いに影響し合い「ともに」音楽表現を高めるということである。鉄道が大好きなAはJR品川駅の発車音を発表し、高い評価を得たことで自信を持ち、山手線全曲を達成。さらに同じ鉄道オタクの仲間が集まり、音色にこだわって試行錯誤する中で、楽器に向かう手の形も美しくなっていた。また、休み時間やお昼のミニコンサートには様々な学年の子どもが集まった。憧れた演奏を真似したり、新しい興味が湧いてチャレンジしたりと、いいなと思ったことが、後の授業に何らかの形で反映され広がった。表現する他者に触発されて、聴くことが能動的になり、多様な感じ方を受けとめ批評しあう中で対話する空間がうまれたのだ。

もう一つは、個々の興味が学校を超えて社会に向かっていくことである。6年生で行った日本や世界の伝統楽器に関する新聞づくりの例を挙げる。和太鼓の胴となるケヤキなどが伐採で少なくなり、食生活の変化により皮に油が含まれて適さないために、木はアフリカ産、皮はニュージーランド産が増えたという記事を読んだBは「日本の楽器と思われる和太鼓は国産だけでは作れない」ことに驚いた。三味線を調べたCは、「皮には犬ややぎ、カンガルー、鹿など、撥には象牙、くじらの骨、亀の甲などが使われ、ワシントン条約や動物愛護団体からの規制でこれらが入りにくくなった」と制作者から聞く。さらに「力加減や皮の状態の見極めなど、繊細さが必要なのですべて手作業であり、一人前になるには10年はかかる。はやく後継者がきてくれるといいなあ」という言葉に伝統音楽を支える難しさを実感した。また、ガムランを取り上げたDは、家にあったおもちゃのサロンで『涙をこえて』を演奏しようとした経験から「確認してみるとソのフラットと考えた音が微妙に違っていました。いろいろ試しましたが、結局すべて音が違いピアノにはありませんでした。ガムランの独特の音の秘訣だと思いました。」と述べた。

異なる興味をもとに個々が学んだことが音楽室の中で語られることにより、子どもたちは、30人30通りの感じ方があり、興味や関心も異なることを知った。その積み重ねが異文化を理解する姿勢を促し、楽器との対話、演奏家や製作者との対話、さらに社会との対話を生み出し、市民としての資質育成につながる可能性を私は実感してきた。

幼児教育で有名なレッジョ・エミリアの幼児学校では「piazza(広場)」が大切にされている。どのクラスの子どもも自由に行き来し、交流する中で想像力を活かし、創造的な活動が営まれている。そこでの出会いと対話、そして旅立ちは、街のあちこちの「広場」で見られるものと同じである。教師は子どもを一人の市民として尊重しており、自らもよき学び手、聴き手として一緒に生きている。表現者を育む環境である。音楽をミュージッキングと捉え「今日の前にいる子どもとともに生まれる活動」をしっかりと見つめるならば、「目当てと振り返り」や「グループ内で左から順番に意見を言う」といった規範に縛られた姿が、本当の対話や深い学びといえるのかを、考え直すことができるのではないだろうか。学ぶということの根源をたどれば音楽に行き当たる。「広場」で子どもとともに営む音楽が、「学校音楽」を「市民を育てる音楽」へと転換してくれるのではないか。そう願わずにはいられない。

2 韓国音楽教育学会 (KMES) 参加報告

藤井 康之 (奈良女子大学)

2019年8月8日(木)・9日(金)にソウルの中央大学(Joongang University)で開催された、50回目となるメモリアルなKMESに、今川会長含め8名のメンバーと参加してきました。ご存知のように、日韓関係が悪化しているさなかでの開催となったため、直前まで緊張と不安を抱いての参加となりました。しかし、KMES会長はじめ、関係者のあたたかく丁寧なお迎えをさせていただいたことで、会場に足を踏み入れたとたん、不安や緊張は払拭されました。今川会長が基調講演の中で、「このような政治的に不安定な状況のときこそ、両国が文化的かつ学際的な交流をすることが大切」と述べられていましたが、まさにその通りの学会となりました。

日本の学会とは少し雰囲気が違うな、と印象的だったことは、韓国の参加者はとてもリラックスした雰囲気の中、発表者の発言に対して笑いや声かけを交えつつ率直に反応していたことと、なにより発表者も参加者も自らが音楽と関わることの喜びを全身で表現しながら、学会という空間を共にし、創り上げようとしていた姿です。

日本も韓国も、人間にとって音楽とはどのような存在なのか、音楽を学ぶことが人間の成長においてどのような意味を持つのか、という根源的な問いは同じです。両国の歴史と文化は異なりますが、同じ問いを共有し探求する隣国の人間同士、これからも互恵的な交流と学びがずっと続くことを心から願っています。

3 2019世界教育学会大会(WERA)参加報告

森尻 有貴(東京学芸大学)

2019年8月5日(月)～8日(木)に第10回世界教育学会(World Education Research Association)が、東京大学と学習院大学にて開催された。この大会は第78回日本教育学会と共催のため、多くの参加者で会場は賑わい、ポスター発表、口頭発表、基調講演、シンポジウム等の数も大規模であり、口頭発表だけでも同時に14部屋で開催されるほどであった。いくつかの発表やシンポジウムにおいては、オーディオガイドで日本語の逐語訳を聞くことができるシステムも用意されていた。発表者、参加者は世界各国から集まった様々な教育研究者であり、その視点や内容は新鮮なものも数多くあった。発展途上国で子どもたちが直面している問題や移民教育の実態、各国の教育政策や地方行政の実態等、世界に広がる大きな教育的課題の一端を見ることができた。音楽教育という学問分野を考える前に、「教育学」という研究分野の研究や実践、課題や展望などの示唆を得る非常に良い機会であった。次回は2020年7月1日(水)～3日(金)にスペインで開催される。

4 日本コダーイ協会全国大会2019 in 東京 参加報告

飯泉 祐美子(帝京科学大学)

2019年8月24日(土)～25日(日)に国立音楽大学において『日本におけるコダーイ・メソッドの今までとこれから』日本コダーイ協会全国大会2019 in 東京が開催された。両日とも3つの分科会「第1分科会—わらべうた&コダーイ・メソッド入門」「第2分科会—学校教育におけるコダーイ・アプローチ」「第3分科会—児童や大人の合唱団の指導者にとっての移動の意義」に分かれ、コダーイの目指した教育理念をそれぞれの角度から体験を通して学ぶことができた貴重な2日間であったと

感じている。私が参加した第2分科会では分科会の始まりがコダーイ入門（わらべうた体験）であり、全員参加でわらべうたあそびを体験し、人とつながる楽しさが生まれる楽しいひと時であった。私にとって、コダーイの理念を再認識した2日間であった。

5. カール・オルフの音楽教育夏期セミナーに参加して 西沢 久実（神戸市立神戸祇園小学校）

2019年8月17（土）・18日（日）に、東京学芸大学に於いて、第32回カール・オルフの音楽教育夏期セミナーが行われた。分科会は、「自分らしい音色を探してみよう!」「絵本から生まれる音楽劇の世界」「おはよしの音楽づくり」「創造的で即興的な身体表現」「初めての方のために」「オルフのちから—幼児の非認知能力を育む—」があり、様々な立場からオルフ音楽教育の紹介がなされた。全体会では、目黒流貫井雛子保存会による演奏とワークショップ後、井口太氏、細田淳子氏、石上則子氏によるパネル・ディスカッションがあり、大会テーマ「お囃子を楽しもう!オルフ・シュールヴェルクと伝統音楽」について、活発な意見交流がなされた。

6. 音楽学習学会第15回研究発表大会参加報告 古庵 晶子（京都ノートルダム女子大学）

去る2019年8月25日（日）に、国立音楽大学にて音楽学習学会第15回研究発表大会が開催された。午前中のシンポジウムは「音楽科のアイデンティティを検証する—音楽科で育てる「資質・能力」とは何か—」がテーマであった。後藤俊哉横浜市立さわの里小学校校長による音楽科の模擬授業をフロア全員で受講し、山中文氏（椋山学園大学）、磯田三津子氏（埼玉大学）をコメンテーターとして、活発に議論を深めた。午後からの研究発表は5会場26名の発表が行われた。私が発表した研究は高齢者が対象者であるが、フロアでの模擬授業から、生涯にわたり音楽を愛好する心が育つための「資質・能力」とは何であるかと改めて考えさせられた一日であった。

4 会員の声

1. 幼児音楽教育の新たな可能性を探って 藤尾 かの子（エリザベト音楽大学）

今から十数年前、現在の勤務校であるエリザベト音楽大学の幼稚園教育課程に進学した際、そこでのカリキュラムに、幼児教育のメソッドの一つである「モンテッソーリ指導法」という講義が設定されていました。一般的にモンテッソーリ教育では、保育室に約100種類ほど設置されている教具の中から、子どもが自分の興味のあるものを選択し、自主的に活動に取り組みます。大学の講義の中で、その教具一つひとつを手にとって体感することで、それらの精巧な作りにすっかり魅了されました。また、モンテッソーリ園での幼稚園実習等では、自然につくり出された静かな環境の中で、子どもが楽しそうに、かつ集中した様子で活動する姿に深く興味を持つようになりました。これらの経験が起点となり、修士・博士課程や現在の研究では、モンテッソーリ教育にテーマを絞り、その中でも音楽教育を切り口として研究するようになりました。

モンテッソーリ教育は、日本の保育現場に広く導入されていますが、モンテッソーリや彼女の後継者らが考案した音楽教育は体系的なものとして存在するにも関わらず、あまり実践されてきていません。

それはなぜだろうと疑問を抱き、調査する中で、日本のモンテッソーリ教師の養成コースでは、音楽がその他の分野と比較してあまり教授されてきていないことが大きな原因であることがわかってきました。また、例えば、幼児音楽教育法として著名なダルクローズの考案したリトミックと比較して、モンテッソーリの音楽教育が実践されていないのは、ある特定の教具を使用しなければ活動が成り立たないということが要因となっているようです。このようなことから、モンテッソーリ園の保育者らが、モンテッソーリの思想に適応するような音楽教育のあり方を日々模索しているということも、調査を通して明らかになってきました。

このように見てみると、モンテッソーリの音楽教育を保育現場に導入するのは困難でありそうに思いますが、1980年代以降、モンテッソーリの後継者らによって、教具を使用せずに子ども同士がやり取りをしながら、即興的に表現するという音楽活動が数多く考案されました。それは主として、創造的音楽学習の要素を取り入れたものです。モンテッソーリの音楽教育では、メソッドが考案された1900年代初頭から「静けさ」を出発点として、子どもが音を集中して聴く姿を育むことを目指す活動が実践されています。具体的には、子どもが耳を澄まして環境の音を聴く、あるいは音が出ないように注意しながら移動する、「静粛のレッスン」と呼ばれる活動です。モンテッソーリの後継者らが考案した新たな音楽教育では、音を注意深く聴くことを基盤としながらも、遊びの要素を取り入れ、子どもが自分の音楽表現を主体的に探求するような活動が数多く提案されています。これらの活動を通して、子どもは聴く力や表現力を育みながら、音楽好きに育つのではないかと感じています。また、モンテッソーリ園ではなくても、保育現場に導入することのできる音楽活動であるため、幼児音楽教育に新たな可能性をもたらすのではないかと考えています。

現在は、勤務校において、幼稚園教育課程の音楽表現に関する授業を受け持ちながら、上述したモンテッソーリ教育に基づく音楽教育に特化した授業も展開しています。授業を通して学生らは、その他の音楽教育との親和性に気付いたり、あるいはモンテッソーリ教育ならではの要素を感じ取ったりと、身をもって経験しているようです。学生が保育者となった際、子どもに多様な音楽体験を与えることができるように、自らの研究や授業を充実させていきたいと思っています。

2. 日本音楽教育学会第9回夏季ワークショップ in 弘前・参加報告

加藤 希央 (至学館大学・名古屋女子大学・桜花学園大学)

本ワークショップは「つくってあそぼう—地域の芸術経験を目指して—」をタイトルに、2019年8月11、12日の2日間、青森県弘前市SPACE DENEGAにて開催された。初日はサウンドペインティングという即興演奏の手法を学び、実際に演奏を試みた。約30名の参加者が各自持参した多様な楽器（ヴァイオリンや民族楽器、幼児の玩具も）がペインターのサインのもと一斉に鳴らされた時、思いがけず美しい音響に包まれた。その感覚は筆者にとり忘れがたい経験となった。2日目はスタンピングという絵画技法を用い、参加者が協力して描いた作品を図形楽譜に見立て演奏したり、その場で書かれるペンの筆跡に反応し即興演奏を行うワークを体験。あたかも線描と合奏するようで、音楽と身体の結びつきに新たな知覚を得たように感じた。両日ワーク後に行われたディスカッションでは、紹介された即興手法への様々な意見、また音楽教育における評価の問題も議論され、教科「音楽」の今後を考える良い機会となった。

3. 第50回東京大会で初めての発表を終えて

井越 尚美（佛教大学）

私は、3年前の横浜国立大学と昨年の岡山大学での大会に参加した。発表者へ多くの意見が飛び交う雰囲気は気後れしたが、たくさんの方々の専門の方から指摘を受けられる貴重な場所であるともわかり、今回は発表者として参加することを決めた。

初めてのポスター発表は、緊張しながらも私の研究内容について、知見を深めることができると期待して挑んだ。ポスターが掲示されると、全発表者のレイアウトが気になって見回った。私のポスターも違和感なく並んでいるようで一安心した。その後、積極的に、発表者の方々へ研究内容やポスター作成方法などを質問することもでき、参考にしたいポスターは写真を撮らせてもらった。更には、私のポスターに興味を持ってくださる方も現れた。今後の研究の方向性など相談にも乗っていただき「来年、楽しみにしています。」とお言葉をかけていただいた。発表して良かったと、胸がいっぱいになった。

今回、自身が発表したことで、他の方の研究に対し、前向きに取り組むことができた。

私の研究は始まったばかりだ。ポスター作成前からお世話になった先生方や、大会中にご教示いただいた先生方に感謝をして、これからも研究を進めていきたい。

4. 創の喜び！ Hands-on & Minds-on

近藤 真子（文教大学）

共同企画の良さは、次世代教育の可能性を一緒に考える中で、個では見えなかった事に気づき、未来に向けて新たなビジョンや力が生まれてくることではないだろうか。今回の共同企画は、作曲家の近藤氏、世界を「なめらか〜に」を企業理念に社会貢献にも取り組むNTN株式会社の「回る学校」、NHK体操のお兄さんであり、多くの若い力を結集して社会福祉支援を行う「にじのいえ」理事長の鈴木氏らが「クロック・オーケストラ」音楽づくりに関心を持って下さった事からはじまった。それぞれの実践に共通するのは子どもの幸せと成長への願い。一つの簡単な音楽づくりが、分野の壁を超え個から社会へと広がり多数の方々に体験して頂けたことや、そこでの感動場面や生の声を其々の立場から共有して下さった事は、音楽づくりの意義や可能性について考える良いきっかけとなった。音楽教育の役割についても再認識することができたように思う。後半、島崎氏のリードのもと、参加者全員でつくった「クロック・オーケストラ」は一人一人の個性あふれる音や声が多様に重なり合って紡ぎ出す、正に音と動きの共創の響と喜び。感動的だった！大変熱心にご参加くださった皆様、ありがとうございました！

5. 日本音楽教育学会第50回大会で初めて発表して

宿久 舞希(町田市立つくし野中学校)

私にとって学会とは、立派な先生方や先輩方がとにかく何かすごい発表をたくさんする…そんな場所でした。2年前の愛知大会で院生としてポスター発表で参加をした時は、まさか自分が口頭発表をするなんて想像すらしていませんでした。

勇気を出して口頭発表に踏み切った今回の大会では嬉しい出来事がいくつもありました。まず、自分の研究に興味をもってくださる方々がたくさんいらっしゃったこと。予想以上に多くの方々に発表を聴いていただくことができ、質問をして下さったり話しかけて下さったりした方もいて、充実した交流ができました。そして、学部・院生時代にお世話になった方々に、自分の研究成果を聴いていただくこと。50回大会という記念すべき大会で、発表という機会をもって、今までの感謝をお伝えできたことは大変幸いでした。貴重な場をくださいました東京藝術大学をはじめ、運営の方々、参加された皆様に多謝いたします。

6. 50周年記念大会を終えて

小島 千か(山梨大学)

学会設立50周年の節目の大会、初めて実行委員として関わらせていただいた。準備段階から院生フォーラムに携わり、当日は朝の受付担当だった。台風19号の影響で、大会前々日まで山梨県側の中央線が不通であったため、何度も駅に確認に行き心配していたが、前日に各駅停車が運行再開した。4時間かけての鈍行での移動であったが、同僚教員とのおしゃべりをしながら、疲れを感じずに当日を迎えることができた。

院生フォーラムの準備では、面識のない藝大の院生たちとメールでコンタクトを取りながら内容等を考えたため意思疎通を図ることが難しいことがあったが、フォーラム前日、当日の話し合いの中で上手くいきそうな手応えがあり、コミュニケーションの大切さを痛感した。本番では、担当院生たちの取りまとめが上手で、参加いただいた方々の協力のもとディスカッションが活発に行われた。また、オブザーバーの先生からも貴重なご意見をいただくことができた。研究発表では、多くの方の立ち見や教室に入れず廊下で聞かれている会があったり、2日目の受付では、名札ホルダーが足りるか懸念されたり、予想をはるかに上回るご参加を得た。情報交換会にも多くの方が出席下さり、親交を深められたことと思う。私も今回初めてご一緒した実行委員の方々と受付テーブルでの宴会を楽しんだ。50周年記念大会は大盛会でした。

7. 会員の最新刊・近刊等紹介

★ 吉田 優貴 著『いつも躍っている子供たち—聾・身体・ケア—』

風響社 2018/2/20 A5判・356頁 ISBN978-4-89489-243-9 [本体 5,000円+税]

世界はいつも〈躍〉っている。ケニアの聾の子供の会話やダンスに寄り添い「出来事としての身体群のマルチモーダルな共振」という独自のコミュニケーション観とともに、新たな音楽観も提供する試み。

★ 深見友紀子、小梨 貴弘 著『〔音楽指導ブック〕音楽科教育とICT』

音楽之友社 2019/11/7 B5判・96頁 ISBN978-4-276-32172-4 [本体 2,000円+税]

実践面～音楽の授業や行事などで活用できるICT機器の種類、活用事例紹介と、理論面～ICT活用の現状や今後の課題、展望から構成されている。現場の先生にも研究者にも読んでいただきたい、タイトルに「ICT」が入った音楽科教育では初めての一冊。

★ 平澤 博子 著『—ウィーンから日本へ—近代音楽の道を拓いた—ルドルフ・ディットリヒ物語』

論創社 2019/11/15 四六判・212頁 ISBN978-4-8460-1860-3 [本体 2,400円+税]

明治の時代にお雇い外国人として来日し、幸田延・安藤幸姉妹ら多くの音楽家を育成指導。日本における西洋近代音楽教育の父ともいべきディットリヒの華麗で劇的な足跡を追う、はじめての評伝。日本オーストリア友好150周年・ディットリヒ歿後100年記念出版。

書籍の他、CD、DVDなどのリリースもお寄せ下さい。書誌情報、基本的な音源情報に加えて「である調」90字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス ☞ (半角で) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

5 報 告

1. 2019 年度総会

日時：2019 年 10 月 19 日 (土)17:10～18:15

場所：東京藝術大学 5-109

開会に先立ち、有本副会長より、出席者 84 名、委任状 384 通、合計 468 名であることが報告された。会則第 13 条に基づき、会員総数 1579 名の 5 分の 1 の定足数 (316 名) を満たしていることにより、総会の成立が確認された。

1. 開会の辞 有本真紀副会長
2. 会長挨拶 今川恭子会長
3. 議長選出 高橋雅子会員 (山口大学) が選出された。
4. 報告事項

(1) 会務報告 (今田匡彦事務局長)

総会資料に基づいて、平成 30 年 10 月 6 日から令和元年 10 月 19 日までの会務報告があった。

(2) 選挙報告 (水崎誠選挙管理委員長)

第 24 期会長・理事選挙が滞りなく実施されたことが報告された。

選挙結果確定後、中国四国地区当選者の三村真弓会員から特別な事情による当選辞退の申し出があり、日本音楽教育学会理事選挙実施要領 6 (5) の規定に従い、この申し出を受理、中国四国地区の次点者が同点で 2 名だったため、8 月 4 日学会事務局にて、同 6 (3) の規定に従って選挙管理委員会を開催、委員全員の立ち会いのもとに抽選が厳正に実施されたことが報告された。抽選の結果、権藤敦子会員が繰り上げ当選となったことが報告された。

(3) 各委員会から

- ・編集委員会 (水戸博道委員長)

執筆要領とテンプレートを大幅に改訂したことが報告された。また委員会からの要望として、投稿の際はテンプレートを上書きする形をお願いしたいこと、採択率アップのために学会誌に投稿される前に周囲の会員に読んでいただくということをしてほしい旨が報告された。

- ・国際交流委員会 (坪能由紀子委員長)

活動にはキャンベル氏を迎えたプロジェクト研究と一緒に取り組んだことが報告された。また委員会からの要望として、会員が国際的な催し物をされる際はぜひ一報いただきたいこと、若干ではあるが補助も検討できることが紹介された。

- ・広報委員会 (奥忍委員長)

ニュースレター発行に関わって、締切をお守りいただきたいことと、会員の最新刊をぜひお知らせいただきたいことが要望された。

- ・学会賞審査委員会 (今川会長)

本日の総会に先立ち第 6 回学会賞の表彰を行えたことが報告された。

・将来構想ワーキンググループ（北山敦康常任理事）

昨年度から検討を開始し、一般社団法人化に向けての準備を進めたこと、規定、会員情報の改善等を進めていることが報告された。

規定の改善については、理事の選挙に関わる改訂を進めてきたが、検討内容2点のうち、本総会では1点の承認を求めることになることが報告された。

今後50年を見据え将来に向け安定的な活動をしていくには、若い会員に活躍いただくことが欠かせないと考えており、そのための改善を引き続き検討していくことが報告された。

・APSMER 開催準備委員会（水戸 APSMER 委員長）

APSMER は今年の7月にマカオで開催され、その際、次回2021年は東京で本学会が主催で行うことを案内したことが報告された。さらに、現在は会場探しに取り組み有力候補に交渉中であること、参加者は日本が一番多く日本の存在感が増しているのも、再来年の東京大会はよいタイミングになったと考えられること、東京大会は8月初旬の平日開催を考えていることが報告された。

・音楽文献目録委員会（長野麻子委員）

音楽文献目録第46号が昨年10月に400部発行され175冊購読されていること、IAMLとRILM共催による立教大学で開催のシンポジウムの報告書が発行されたことが報告された。またRILMの財政状況が悪化しており、助成金は獲得できているものの821,577円の累計赤字があることが報告され、購読部数を増やしたいという要望が出された。

さらに、音楽文献目録第47号が本年10月16日（水）に刊行され、見本を本学会会場で展示し、申込用紙を配布していることが報告された。

続いて会場より、文献検索はインターネットが多くなっていると思われるのでRILMは不要ではないか、その関係を解消することを検討してもらえないか、という意見が出された。長野委員からは、文献の電子化作業がなかなか進んでいない中RILMの役割もまだあると思うが、そのような意見があることを伝える、という返答がなされた。

(4) 学会運営の情報化について（今川会長）

学会業務を電子化していくための準備段階として、会員情報管理システムを改善し、会員情報更新を個々の会員が行うこととしたこと、2段階認証を導入したことが報告された。会員のメールアドレスが正確に登録されていることが重要なのでメールアドレスの登録をお願いしたいという要望がなされた。

(5) 第9回夏季ワークショップ in 弘前報告（今田実行委員長）

若手の研究者中心の企画のもと、8月11日・12日（日・月）の2日間に渡り青森県弘前市で開催され、全国より29名の参加があったことが報告された。

(6) 設立50周年記念出版『音楽教育研究ハンドブック』について（加藤富美子委員長）

ハンドブックが刊行できたことが報告された。会員はもちろん会員以外の方にも手に取ってもらいたい旨、呼びかけがなされた。また音楽之友社との間で覚え書きを締結したことともに以下が報告された。

・販売特典が2020年3月31日（火）まで延長された。

・連絡先は後日広報される。

・4冊以上は送料無料になる。

・幅広く宣伝をお願いしたい。

(7) その他

特になし

5. 審議事項

(1) 平成30年度会計報告（島崎篤子常任理事）および監査報告（木村充子会計監事）

大会プログラム掲載資料に基づき、平成30年度一般会計、その他会計について、会計報告が行われた。監査の結果、間違いのないことが報告され、承認された。【資料1】

【資料1】平成30年度会計報告

| | | |
|-------------------|----------------|-----------------|
| II 研究出版基金 | 現在高 | ¥3,603,151 (①②) |
| 収入 | 平成29年度までの積立金 | ¥3,679,794 |
| | 平成30年度積立金 | ¥200,000 |
| | 利息 | ¥32 |
| 支出 | 50巻の積み | ¥30,165 |
| | 50周年ハンドブック | ¥245,480 |
| | | ¥275,665 ② |
| III 学芸基金 | 現在高 | ¥1,972,729 (①②) |
| 収入 | 平成29年度までの積立金 | ¥1,855,275 |
| | 平成30年度積立金 | ¥800,000 |
| | 利息 | ¥19 |
| 支出 | 学芸賞 | ¥0 |
| | 委員名簿 | ¥695,151 |
| | フレ-50周年シンポジウム | ¥216,982 |
| | 旗高証明 | ¥432 |
| | | ¥912,566 ② |
| IV セミナー・ワークショップ基金 | 現在高 | ¥1,251,241 (①②) |
| 収入 | 平成29年度までの積立金 | ¥1,169,632 |
| | 平成30年度積立金 | ¥300,000 |
| | 利息 | ¥10 |
| 支出 | 2018年度菅業教育セミナー | ¥214,401 |
| | | ¥1,469,642 ① |
| | | ¥218,401 ② |
| V 国際交流基金 | 現在高 | ¥699,928 (①②) |
| 収入 | 平成29年度までの積立金 | ¥430,355 |
| | 平成30年度積立金 | ¥300,000 |
| | 利息 | ¥5 |
| 支出 | 国際交流促進事業費 | ¥30,432 |
| | | ¥730,360 ① |
| | | ¥30,432 ② |
| VI 選挙積立金 | 現在高 | ¥428,233 (①②) |
| 収入 | 平成29年度までの積立金 | ¥85,384 |
| | 平成30年度積立金 | ¥350,000 |
| | 利息 | ¥1 |
| 支出 | 選挙管理委員会交通費 | ¥7,152 |
| | | ¥435,385 ① |
| | | ¥7,152 ② |

| 科目 | 支出 | 予算 | 決算 |
|----------------|------------|-----------|------------|
| 大会運営費 | 2,150,000 | 2,087,959 | 720,000 |
| 大会実行委員会経費 | 720,000 | | 1,402,721 |
| 事務経費 | 1,650,000 | | 1,667,768 |
| 7月27日経費 | 200,000 | | 2,231,898 |
| 学生会費 | 2,600,000 | | 1,566,488 |
| 研究会学費 | 1,655,000 | | 665,410 |
| 経理システム経費 | 935,000 | | 350,000 |
| ニュースレター費 | 350,000 | | 640,000 |
| 別会運営費 | 640,000 | | 1,238,249 |
| 通信・郵送費 | 1,200,000 | | 20,000 |
| 会議費 | 20,000 | | 1,750,000 |
| 旅費・交通費 | 1,750,000 | | 20,000 |
| 印刷費 | 20,000 | | 4,970,800 |
| 事務経費 | 4,970,800 | | 600,000 |
| 事務費 | 600,000 | | 1,698,837 |
| 事務経費 | 1,698,837 | | 2,450,000 |
| 人経費 | 2,450,000 | | 46,800 |
| 事務経費経費 | 46,800 | | 285,000 |
| 分担金 | 285,000 | | 350,000 |
| 選挙積立金 | 350,000 | | 300,000 |
| セミナー・ワークショップ基金 | 300,000 | | 300,000 |
| 国際交流基金 | 300,000 | | 200,000 |
| 研究出版基金 | 200,000 | | 800,000 |
| 学生会基金 | 800,000 | | 0 |
| 予備費 | 3,699,511 | | 19,704,311 |
| 小計 | 19,704,311 | | 14,848,122 |
| 次年度繰越金 | | | 5,929,098 |
| 計 | 19,704,311 | | 20,777,220 |

| 科目 | 収入 | 予算 | 決算 |
|-----------|------------|----|------------|
| 前年度繰越金 | 6,638,311 | | 10,839,000 |
| 正会員会費* | 10,990,000 | | 16,000 |
| 学生会員会費 | 16,000 | | 40,000 |
| 団体会員会費 | 40,000 | | 300,000 |
| 賛助会員会費 | 300,000 | | 516,269 |
| 学生会費売上金 | 300,000 | | 462,047 |
| 不仕代 | | | 58,222 |
| 差控収入 | | | 1,433,228 |
| 大会参加費 | 1,400,000 | | 938,414 |
| その他 | 20,000 | | 793,678 |
| 大会実行委員会基金 | | | 168,728 |
| 別会運営基金 | | | 10 |
| 雑収入 | | | |
| 計 | 19,704,311 | | 20,777,220 |

*Cr(1000x1.1)正会員費(15765)見込計算

◎ 平成30年度決算を上記の通り報告いたします。
 平成31年4月20日
 会計担当 島崎 篤子
 寺田 貴雄
 ◎ 上記の通り相違ないことを監査いたしました。
 平成31年4月20日
 会計監事 木村 充子
 杉江 照子

(3) 2020 年度事業計画 (今田事務局長) および 2020 年度予算について (島崎常任理事)

総会資料に基づいて説明があり、承認された。【資料4】【資料5】

【資料4】2020 年度事業計画

| | | | |
|--------|--------|----------------------------|-----------|
| 2020 年 | 4月中旬 | 2019 年度会計監査会 | |
| | 5月初旬 | 2020 年度第 1 回常任理事・理事会 | |
| | 5月中旬 | 2020 年度第 1 回編集委員会 | |
| | 6月中旬 | 第 51 回大会研究発表・共同企画申込締切 | |
| | 6月下旬 | ニュースレター 第 80 号 発行 | |
| | 6月下旬 | 第 51 回大会研究発表受理通知 | |
| | 7月中旬 | 2020 年度第 2 回常任理事会 | |
| | 8月上旬 | 2020 年度第 2 回編集委員会 | |
| | 8月 | 第 16 回ゼミナール | |
| | 8月下旬 | ニュースレター 第 81 号発行 | |
| | 8月末日 | 『音楽教育学』第 50 巻第 1 号発行 | |
| | 8月末日 | 第 51 回大会プログラム発送 | |
| | 10月 | 2020 年度第 3 回編集委員会 | |
| | 10月 | 2020 年度第 3 回常任理事会・第 2 回理事会 | 会場：京都教育大学 |
| | 10月17日 | 第 51 回大会・総会 | 会場：京都教育大学 |
| | 12月27日 | ニュースレター第 82 号発行 | |
| | 12月31日 | 『音楽教育実践ジャーナル』vol.18 発行 | |
| 2021 年 | 2月中旬 | 2020 年度第 4 回編集委員会 | |
| | | 2020 年度第 4 回常任理事会 | |
| | 3月22日 | ニュースレター第 83 号発行 | |
| | 3月31日 | 『音楽教育学』第 50 巻第 2 号発行 | |
| | 3月末日 | 2020 年度会計決算 | |

【資料5】2020 年度予算

I 一般会計

| 収 入 | | 支 出 | |
|-----------|------------|--------------------|------------|
| 科 目 | | 科 目 | |
| 前年度繰越見込金 | 3,270,698 | 大会運営費 | 2,150,000 |
| 正会員会費※1 | 10,976,000 | 大会実行委員会経費 | 700,000 |
| | | 事務局経費 | 1,250,000 |
| | | 7,000×正会員実数1,568※2 | 200,000 |
| 学生会員会費 | 16,000 | 学会誌費 | 2,500,000 |
| 団体会員会費 | 40,000 | 音楽教育学発行費 | 1,650,000 |
| 賛助会員会費 | 300,000 | 実践ジャーナル発行費 | 850,000 |
| 学会誌売上金 | 300,000 | ニュースレター費 | 350,000 |
| | | 例会運営費 | 640,000 |
| 本誌代 | | 通信・郵送料 | 1,250,000 |
| 送料収入 | | 会議費 | 20,000 |
| 大会参加費 | 1,400,000 | 旅費・交通費 | 1,700,000 |
| その他 | 20,000 | 翻訳費 | 20,000 |
| 大会実行委員会返金 | | 事務局費 | 4,804,400 |
| 例会運営費返金 | | 事務費 | 450,000 |
| 雑収入 | | 人件費 | 2,600,000 |
| | | 事務局運営費 | 1,800,000 |
| | | 事務局員保険費 | 54,400 |
| | | 分担金 | 295,000 |
| | | 選挙積立金 | 180,000 |
| | | ゼミナール/ワークショップ基金 | 50,000 |
| | | 国際交流基金 | 151,000 |
| | | 研究出版基金 | 20,000 |
| | | 学会基金 | 50,000 |
| | | 予備費 | 2,042,298 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 計 | 16,322,698 | 計 | 16,322,698 |

※1 特別会員3名を含む。

※2 正会員実数は7月29日現在、前総会調査後。

II (2020 年度その他会計)

| | | |
|---------------------------|------------|--------------|
| II 研究出版基金 | ¥2,823,151 | ①-② |
| 収入 | | |
| 2019年度までの積立金 | ¥2,903,151 | |
| 2020年度積立金 | ¥20,000 | ¥2,923,151 ① |
| 支出 | | |
| APSMER関連 | ¥100,000 | ¥100,000 ② |
| III 学会基金 | ¥1,722,729 | ①-② |
| 収入 | | |
| 2019年度までの積立金 | ¥1,872,729 | |
| 2020年度積立金 | ¥50,000 | ¥1,922,729 ① |
| 支出 | | |
| 電子投稿システム費 | ¥200,000 | |
| 学会賞 | ¥0 | ¥200,000 ② |
| IV ゼミナール・ワークショップ基金 | ¥981,241 | ①-② |
| 収入 | | |
| 2019年度までの積立金 | ¥1,231,241 | |
| 2020年度積立金 | ¥50,000 | ¥1,281,241 ① |
| 支出 | | |
| ゼミナール補助金 | ¥300,000 | ¥300,000 ② |
| V 国際交流基金 | ¥1,901,928 | ①-② |
| 収入 | | |
| 2019年度までの積立金 | ¥1,900,928 | |
| 2020年度積立金 | ¥151,000 | ¥2,051,928 ① |
| 支出 | | |
| 韓国学会会長招聘等 | ¥100,000 | |
| 国際交流促進事業費 | ¥50,000 | ¥150,000 ② |
| VI 選挙積立金 | ¥308,233 | |
| 収入 | | |
| 2019年度までの積立金 | ¥128,233 | |
| 2020年度積立金 | ¥180,000 | ¥308,233 |

(4) 『音楽教育学』「投稿規定」の改正（水戸編集委員長）

総会資料に基づいて説明があった。特に改定案の外部査読者の「外部」の意味については、編集委員会以外の会員という意味が基本であるが、分野によって会員以外の査読者がどうしても必要と判断された場合は、会員以外という意味も含まれるという説明がなされた。

会場より「外部」という意味が今の補足説明がないとわかりにくい、文章上に表現として書かなくてよいか、その点について編集委員会等で検討されたのか、という質問があった。委員長より、編集委員会、常任理事会、理事会を通じて検討したが、表現が複雑になる懸念があったため、提案の文章となったことが回答され、了承された。また会長より、規定の文章であるのでできるだけシンプルなものにと考えた結果であること、「外部」の意味については総会記録に明記すること、さらに委員長より広報でも意味を周知することが述べられ、提案の通り承認された。

(5) 第51回大会について（今川会長）

京都教育大学 2020年10月17日(土)、18日(日)(予定)開催が提案され、承認された。

(6) 第52回大会候補地について（今川会長）

関東地区を担当とし首都圏で開催される予定であること、担当大学、会場については調整中であることが報告され、承認された。

(7) 理事選挙に関わる細則改正について（北山常任理事）

理事選挙実施要領の改正について総会資料に基づいて説明があり、承認された。【資料6】

【資料6】会長・理事選挙実施要領 新旧対照表

| 新 | 旧 | 備考欄 |
|--|--|------|
| II 理事選挙 | II 理事選挙 | |
| 1 選挙資格者・被選挙資格者名簿の確定は、改選前年度の5月末日に行う。(細則第15条・第17条) | 1 選挙資格者・被選挙資格者名簿の確定は、改選前年度の5月末日に行う。(細則第15条・第17条) | |
| (略) | (略) | (略) |
| 6 理事選挙の手続き | 6 理事選挙の手続き | |
| (1) 理事選挙は、正会員による無記名投票とする。その際投票用紙の記名人数に満たない投票も有効とする。 | (1) 理事選挙は、正会員による無記名投票とする。その際投票用紙の記名人数に満たない投票も有効とする。 | |
| (2) 当選者の決定は、得票順とする。 | (2) 当選者の決定は、得票順とする。 | |
| (3) 同点者が生じた場合は、選挙管理委員会において抽選により決定する。 | (3) 同点者が生じた場合は、選挙管理委員会において抽選により決定する。 | |
| (4) 理事当選者に会長当選者が含まれている場合は、会長当選者の所属地区の次点者を理事当選者とする。 | (4) 理事当選者に会長当選者が含まれている場合は、会長当選者の所属地区の次点者を理事当選者とする。 | |
| (5) 当選者は、原則として理事を辞退することはできない。ただし、特別な事情がある場合は、会長へその理由を述べ、了承を得て辞退することができる。 | (5) 当選者は、原則として理事を辞退することはできない。ただし、特別な事情がある場合は、会長へその理由を述べ、了承を得て辞退することができる。 | |
| (6) 辞退者が生じた場合は、得票数の多い順に繰り上げて当選者を確定する。 | (6) 辞退者が生じた場合は、次点者を繰り上げて当選者を確定する。 | (変更) |
| (略) | (略) | (略) |

(8) ISME 制度改革について (今田事務局長)

日本音楽教育学会が ISME と PROFESSIONAL ASSOCIATION を結ぶことになったことが、総会資料に基づいて説明され、承認された。

会場より全日音研はどのように臨もうとしているのかという質問があり、事務局長が他の会のことなのでわからないと回答した。

(9) 次期役員について (今川会長)

今川会長より、第 24 期日本音楽教育学会会長・理事選挙において今川恭子次期会長と 20 名の理事が選出されたことが報告された。会長より次期理事が紹介され、会則第 14 条 7 に基づき 10 月 19 日に開催された「役員選出のための理事会」で次の通り副会長の指名と承認、事務局長と常任理事、会計幹事の選出が行われたことが報告され、承認された。

副会長 本多佐保美

事務局長 木村充子

常任理事 石上則子, 小川容子, 小畑千尋, 権藤敦子, 齊藤忠彦, 佐野靖, 嶋田由美, 杉江淑子, 水戸博道

会計監事 島崎篤子, 寺田貴雄

(10) その他

今川会長より、学会の運営を各世代、特により若い世代の会員がより深く関わることのできる体制を構築していきたいとの考えが述べられた。

6. 議長解任

7. 閉会の辞 (有本副会長)

2 2019 年度第 3 回常任理事会

日時：2019 年 10 月 18 日 (金) 13:45 ~ 14:45

場所：東京藝術大学 5 号館地下大会議室

出席：今川, 有本, 今田, 小川, 菅, 北山, 佐野, 島崎, 坪能, 藤井 (記録)

今回の常任理事会は、2019 年度第 2 回理事会の直前に開催されたため、理事会と重複しない審議事項・報告事項を中心に審議・報告が行われた。

【審議事項】

1. 総会議題の確認

総会資料をもとに、総会の審議事項・報告事項について確認が行われた。

2. 理事選挙に関わる規約改正について

日本音楽教育学会会長・理事選挙実施要領 (案) および細則第五章の役員選挙に関する規則 (案) の新旧対照表をもとに、理事会提案の確認が行われた。

3. その他

<今後の会議予定>

2019年度第4回常任理事会 日時：2020年2月23日（日） 14時～ 場所：聖心女子大学

3. 2019年度第2回理事会

日 時：2019年10月18日（金） 14:45～16:45

場 所：東京藝術大学5号館地下大会議室

出 席：今川、有本、今田、小川、奥、菅、北山、佐野、島崎、坪能、中嶋、日吉、藤井（記録）、本多、水戸、村尾、山崎

【会務報告】（4月29日～10月18日）

| | |
|----------|----------------------------------|
| 5月18日 | 第1回編集委員会（明治学院大学） |
| 5月18日 | ニュースレター第76号発行 |
| 6月13日 | 第50回大会発表申込締切 |
| 6月15日 | 第24期会長・理事選挙関係書類発送 |
| 6月26日 | 第50回大会研究発表受理通知 |
| 7月7日 | 第24期会長・理事選挙開票（事務局） |
| 8月4日 | 第2回常任理事会（立教大学） |
| 8月4日 | 第2回編集委員会（立教大学） |
| 8月11-12日 | 第9回夏季ワークショップ in 弘前（SPACE DENEGA） |
| 8月18日 | ニュースレター第77号発行 |
| 8月31日 | 『音楽教育学』第49巻第1号・第50回大会プログラム 発行・発送 |
| 10月18日 | 2019年度第3回常任理事会・第2回理事会（東京藝術大学） |

【審議事項】

1. 総会議題の確認（今田）

総会資料にもとづき総会議題の確認を行い、了承された。

2. 2019年度補正予算、2020年度予算について（島崎）

『大会プログラム』p.197に掲載の2019年度補正予算（案）資料をもとに、島崎常任理事より説明があり、了承された。続いて、同じく『大会プログラム』p.198に掲載の2020年度予算案について、島崎常任理事より説明があり、了承された。電子投稿システム費については、今川会長より、9月1日から運用されている会員情報管理データベースに関連して補足説明があった。

3. 『音楽教育学』投稿規定の改正について（水戸）

水戸理事・編集委員長より、総会資料をもとに、投稿規定の改正について提案があり了承され、総会で審議することになった。

4. 第51回大会について（今川）

近畿地区の担当で、京都教育大学において開催することと、日程の第一候補として2020年10月17日（土）・18日（日）が示されていることが、今川会長より説明され、了承された。

国際交流委員長より報告があった。

(3) 広報委員会 (奥)

奥理事・広報委員長より、ニュースレター No.78 の割付計画が示され、執筆者や執筆依頼について確認がなされた。また、「学会 HP における学会員限定情報と一般向け情報の切り分けについて」の資料が示され、広報委員会での検討内容が回答として報告された。

(4) 音楽文献目録委員会 (三枝→今田)

今田事務局長より理事会資料の内容が報告された。総会では長野麻子委員が報告を行う。

(5) 将来構想ワーキング (北山)

審議事項 6 で報告を含めたので省略した。(p.20 参照)

(6) APSMER 開催準備委員会 (水戸)

水戸理事より、今年のマカオ大会で次回東京大会開催のアナウンスを行ったこと、会場は大田区産業会館 PiO の特別予約の申込を行う予定であること等の報告があった。日程と場所が確定すれば、助成金申請等について今後の準備作業を進めていくとのことである。

5. 学会運営の情報化について (今川)

今川会長より、9月1日から運用されている会員情報管理データベースについて報告があった。

6. 今後の大会開催時期について (今田)

今田事務局長より、国立大学の AO 入試が 10 月に実施される可能性を踏まえ、今後の大会開催時期について 11 月も視野に入れ検討が必要ではないかとの問題提起があった。加えて、学会誌での大会報告の時期や台風の影響が懸念される近年の気象状況も考慮する必要があるとの言及があった。

7. その他

第 50 回大会について『教育音楽』の取材が入る旨、佐野常任理事より報告があった。

4. 役員選出のための理事会

日 時：2019 年 10 月 19 日 (土) 12:05 ~ 13:05

場 所：東京藝術大学 5-341 教室

出席者：石上、小川、小畑、加藤、木村、権藤、齊藤、笹野、佐野、嶋田、津田、水戸、村尾、日吉、本多、今川 (記録)

欠席者：国府、新山王、杉江、中嶋、尾藤

議題

1. 次期副会長の指名について

本多佐保美理事が指名され、承認された。

2. 次期事務局長の選出

木村充子理事を選出した。

3. 次期常任理事の選出

以下の各理事を選出した。

石上則子, 小川容子, 小畑千尋, 権藤敦子, 齊藤忠彦, 佐野靖, 嶋田由美, 杉江淑子, 水戸博道

4. 次期会計監事の委嘱

島崎篤子会員, 寺田貴雄会員に委嘱することとした。

5. 地区代表の選出

以下の通り地区代表を選出した(敬称略, 後日のメール連絡も含む)

| 地区 | 代表理事 | 地区 | 代表理事 | 地区 | 代表理事 | 地区 | 代表理事 |
|-----|-------|----|-------|------|-------|----|-------|
| 北海道 | 尾藤 弥生 | 東北 | 小畑 千尋 | 関東 | 中嶋 俊夫 | 北陸 | 齊藤 忠彦 |
| 東海 | 国府 華子 | 近畿 | 笹野恵理子 | 中国四国 | 権藤 敦子 | 九州 | 日吉 武 |

6. 理事会 ML について

事務局長候補に選出された木村充子理事が理事会 ML を作成する。

7. 2020 年度第 1 回理事会の予定

2020 年 4 月 25 日 (土) 場所未定



冬牡丹

6 事務局より

事務局長 今田 匡彦

1) 年度会費未納の方は至急お支払いください。

会費未納の場合、送付物の発送、学会誌への投稿、大会での発表等学会活動に支障を来すこととなります。2019年度会費は7,000円です。

2) 『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』のバックナンバーを特価で販売しています。

詳細は学会HPをご参照下さい。

3) 年末年始の閉局期間は、12月27日(金)～1月14日(火)です。

この間のご連絡はメールまたはファックスにてお願いします。ただし、事務局員が不在となりますので、お返事は1月15日(水)以降になります。ご了解ください。

E-mail: onkyoiku アットマーク remus.dti.ne.jp FAX: 042-381-3562



【編集後記】

夏から秋にかけて日本各地で豪雨や台風が発生し、多くの方が被災されました。今年も自然災害の多い一年となってしまいました。犠牲となられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災されました方々に心よりお見舞い申し上げます。

ニューステター78号をお届けいたします。本号では、「音楽教育の窓」「会員の声」いずれも幅広く多くの会員の皆様から原稿をお寄せいただき、おかげさまで、会員相互の情報共有、交流の場としてふさわしい誌面となりました。ご協力ありがとうございました。

今年も残すところわずかとなりました。皆さま、どうぞよいお年をお迎えください。(木村 充子)

投稿先アドレス☞(半角で) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL & FAX：042-381-3562 E-mail：(半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00～15:00

事務局員：亀山・若尾・宇田川